

平成26年度関西電力グループ 経営計画の概要について

平成26年5月7日
関西電力株式会社

関西電力グループを取り巻く状況

- 電力の需給、事業の収支ともに極めて厳しい状況が継続
- 原子力プラントについては、基準地震動や耐震安全性評価の見直しが必要であり、耐震安全性評価の結果によっては、長期にわたり再稼動できない可能性
- 小売全面自由化を柱とする電気事業法改正法案等の国会審議が進展
- 全国大の顧客基盤を有する企業の電力市場への参画表明や他電力の域外進出の動き

経営の方向性

- 足元の危機突破に不可欠な安全最優先の確実な業務遂行をはじめ、電力需給の安定化、コンプライアンスの再徹底などのCSRを基軸とした経営の実践
- 関西エリア以外のアプローチも含め、「総合エネルギー事業」を中核とした競争力ある企業グループへの変革

「お客さまと社会のお役に立つ」という関西電力グループの使命を果たし続けるために、「変わらぬ使命のためのベースアクション」、「変わり続けるための変革アクション」の2つの観点で、以下の6つを柱としたアクションプランを展開してまいります。

変わらぬ使命のためのベースアクション

1. グループワイドでのゆるぎない安全文化の構築
2. 電力需給の安定化に向けた総力結集
3. CSRを基軸にした経営の実践

変わり続けるための変革アクション

1. 競争力ある企業グループへの変革
2. 徹底した経営効率化とコスト構造改革
3. お客さま・社会のご期待に応えるための取組みの推進

- 深層防護（5層）による安全確保の強化
 - ・ソフト面の強化を含め、安全性向上対策としてシビアアクシデント対策を実施
- 規制の枠組みにとどまらない安全性向上の推進
 - ・世界最高水準の安全性を目指し、規制の枠に留まらず、自主的・継続的に安全性向上対策を実施
- 世界に学ぶ安全性向上活動の強化
 - ・世界最高水準の安全性追求をより有効なものにするため、J A N S I を設立
 - ・J A N S I、W A N Oなどの海外機関と連携したトップマネジメントによる安全性向上活動を実施

強化のポイント

- ・原子力の自主的
安全性向上WG
（経産省）
- ・リスク管理について
のJ A N S I 提言

- リスクマネジメントの仕組みの強化
 - ・経営課題としてのリスクの的確な把握
- リスクマネジメントツールの充実
 - ・確率論的リスク評価（P R A）の活用強化
- リスクコミュニケーションの実施・リスク情報活用
 - ・外部ステークホルダーとのリスク認識の共有

- 原子力プラントの早期再稼働
 - ・需給安定の鍵を握る大飯発電所3, 4号機、高浜発電所3, 4号機の早期再稼働

- 自社電源の最大限の活用
 - ・火力発電所の定期点検の度重なる繰り延べにより設備トラブルが高まる中、火力・水力発電所の高稼働運転の維持

- 他社融通等による供給力の確保
 - ・他電力、自家発電および卸電力取引所等からの供給力の調達

- 需給状況に応じた節電へのご協力のお願い
 - ・節電へのご協力のお願いに加え、省エネルギー推進やピーク電力の抑制など負荷平準化を可能とする機器・システム、サービスのご提案

- CSR活動の一層の強化

- コンプライアンスの再徹底
 - ・独占禁止法違反事案に係る再発防止策の徹底

 - ・コンプライアンス再点検の実施

 - ・コンプライアンス対話・研修

 - ・コンプライアンス相談窓口の活用促進に向けた取組み

総合エネルギー事業

- 電源競争力強化
 - ・石油火力発電所のLNG利用、火力電源入札
- お客さま視点に立った最適エネルギーの提供
 - ・ガスシステム改革を見据えたガス販売拡大検討
- 事業エリアの拡大と新たなビジネスモデルの構築
 - ・首都圏における電気事業展開、アライアンスの検討・推進

情報通信事業

- 新サービスの展開
 - ・モバイルサービスの強化

生活アメニティ事業

- 生活アメニティ事業におけるサービス拡充
- 不動産事業会社の統合検討、事業領域・エリア拡大

国際事業

- 収益拡大
 - ・自主開発水力案件の着実な推進、火力入札案件等の獲得

徹底した経営効率化 の推進

- 火力電源の高効率化等による資産効率の向上
 - ・姫路第二発電所設備更新工事
 - ・石油火力発電所におけるLNG利用
 - ・火力電源入札による安価な電源調達
- 新技術やビッグデータ活用による設備形成、運用・保全の高度化

コスト構造改革

- 生産性向上に向けた業務プロセス改革
- 物流・調達改革
- 燃料調達における最大限の経済性追求

お客さまサービス
業務のさらなる
高度化と
コミュニケーションの
一層の充実

- WEB活用によるお客さまの利便性向上
- 原子力再稼働や当社グループの事業に対する理解醸成

お客さま・社会の
エネルギー利用
高度化への貢献

- お客さまの省エネルギー実現に向けたエネルギーマネジメント活動の推進
- スマートメーターの積極的導入
- 再生可能エネルギーの導入推進
- スマートコミュニティ・まちづくり案件への積極的参画

- 当社は、株主のみなさまに対して経営の成果を適切に配分するため、安定的な配当の維持を株主還元の基本方針としている。
- しかしながら、原子力プラントの早期再稼動に全力を尽くすとともに、徹底した経営効率化の推進、電気料金の改定を実施したが、平成25年度も大幅な赤字決算となり、極めて厳しい収支状況。また、先行きについても、経営環境は依然として不透明。このような状況の中、財務体質の健全性の確保に取り組むことが優先課題と考え、誠に遺憾ながら、平成25年度は無配とさせていただく予定。
- 今後とも、原子力プラントの再稼動、需給の安定化および徹底した経営効率化に全力で取り組み、収支の回復に努めてまいります。

料金値上げ申請時の効率化計画と実績

参考1

(単位：億円)

費用項目	具体的な項目	H25 計画	H26 計画	H27 計画	H25～ H27 平均	H25 実績
人件費	・採用抑制による人員削減 ・給料手当の削減 ・厚生費の削減 等	338	341	354	345	360
燃料費、 購入電力料	・燃料費の削減 ・購入電力料の削減 等	253	535	669	486	420
設備投資 関連費用	・発注価格の削減 ・工事実施時期・内容の見直し	53 ※ (194)	64 (223)	82 (235)	66 (217)	60 (450)
修繕費	・発注価格の削減 ・スマートメーターの単価低減 等	243	310	309	287	910
諸経費等	・委託費の削減 ・諸費の削減 ・普及開発関係費の削減 ・研究費の削減 等	366	381	361	370	790
合計		1,253 ※(1,394)	1,632 (1,791)	1,775 (1,928)	1,553 (1,704)	2,540 (2,930)

※ () 内は設備投資の削減額を反映。

○自社開発

発電所名	出力 (万kW)	運転開始	備考
姫路第二4～6号機 [LNG]※1	145.95	26-8～27-3	工事中
相生 1, 3号機 〔重油・原油 → LNG・重油・原油〕※2	75	28年度	着工準備中
和歌山 [LNG]	370	36年度以降	着工準備中
若狭高浜 [太陽光]	0.05	26-11	着工準備中
三田 1号機 [水力]※3	0.06 (0.01)	26-11	工事中
伊奈川第二 [水力]※3	2.2 (0.04)	26-12	着工準備中
市荒川 1号機 [水力]※3	4.77(0.1)	27- 4	着工準備中
三尾 1号機 [水力]※3	3.72(0.17)	27- 4	着工準備中
出し平 [水力]※3	0.05	27-12	工事中
黒部川第二 1号機 [水力]※3	7.29(0.09)	29- 5	着工準備中
黒部川第二 2号機 [水力]※3	7.38(0.09)	31- 9	着工準備中
黒部川第二 3号機 [水力]※3	7.47(0.09)	33-11	着工準備中

※1 姫路第二発電所は、コンバインドサイクル発電方式への設備更新 既設5, 6号機は、平成32年度まで運転を継続

※2 相生発電所1, 3号機の出力変更はなく、現行の重油・原油に加え、LNGを利用する設備への更新

※3 設備更新工事による出力増 [() 内は増分]

○自社開発

①募集規模：150万kW

②受給開始時期：平成33年度から平成35年度

③受給期間：原則15年（10～30年の範囲で応札者にて選択することも可能）